

## 鳥取大学教育研究林の近況

鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター

学内実習がコロナ禍前の水準に戻り、延べ利用者はコロナ禍前の水準に回復しつつあったが、令和6年度は約1,100人と前年度よりも減少した。しかし、外部利用者に関してはコロナ禍以降初めて100名を超え、約170名となった。宿泊利用者数は約750人と前年度の約1.5倍に増加した。

教育研究林蒜山の森で続いていたナラ枯れ被害は沈静化に向かいつつあるが、依然被害木の発生が認められる。被害木については低質間伐材などと一緒に燃料用チップ用に初めて出荷したが、とくに問題点は見られなかったため、今後も継続していく予定である。また、林内で使用しているグラブが老朽化していたが、更新することができた。他の重機も老朽化が著しいため、今後の更新が課題となっている。



写真1 燃料用チップとして出荷した木材



写真2 更新したグラブ